第４学年　国語科学習指導案

平成２９年９月２７日（水）　第５校時
４年１組　２０名
授業者　加藤　大輔

１　単元名　　オリジナル・ストーリーを作ろう
教材名　　「ある人物になったつもりで」（東京書籍４年下）

２　単元の目標

○絵をもとに出来事をとらえ、想像を広げて物語を書くことに、興味をもって取り組むことができる。【関心・意欲・態度】
○絵に描かれている場面について想像を広げ、場面の様子を具体的に考えることができる。【Ｂ　書くこと　ア】
○友達が書いた物語を読み、話の内容や展開、表現の仕方などについて、よく書けているところを具体的に伝え合うことができる。【Ｂ　書くこと　カ】
○句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて物語を書くことができる。【言（１）イ（エ）】

３　単元について

（１）単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

本単元は、小学校学習指導要領国語の第３学年及び第４学年「Ｂ　書くこと」の指導事項「ア　関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。」および、「カ　書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。」を取り上げて指導する。

②付けたい力へ向けての言語活動とその特徴

「Ｂ　書くこと」の言語活動例「ア　身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり物語を書いたりすること。」を具体化した、「オリジナル・ストーリーを作ろう」という言語活動を位置付ける。

ここで取り上げる「オリジナル・ストーリー」とは、一枚の絵から、想像したことをもとに作る物語である。物語は、主人公やその他の登場人物がそれぞれの役割をもっていること、フィクション（虚構）の世界が物語られていること、冒頭部に状況や登場人物が設定され、事件とその解決が繰り返され発端から結末へと至る事件展開によって構成されていることなどの特徴をもっている。中学年では、このような特徴を必ずしも十分満たさなくとも、児童の思いを大切にして創造的な表現をすることの楽しさを実感させることが大切であるということが示されている。今回は、読む方ではなく、書く方の立場でこのような特徴に迫っていかなければならない。

そこで今回は、用意された４枚の絵から自分が物語を作ってみたい絵を１つ選び、その絵から人物や出来事について想像を広げ、物語を書くという言語活動を設定した。本教材は、物語を書く活動を通して、想像的に思考し表現する力や、取材や構成、記述、推敲などの力を身につけることができる教材である。４枚の中から自分で興味のある場面の絵を選ぶことで、主体的に想像を広げ、物語を書くことができるだろう。また、物語を書くだけではなく、書いた物語を友達と読み合うことで、人によって出来事のとらえ方が異なってくることを実感させたい。一つの出来事でも、その出来事をどう感じるかは、人によって違ってくることや、同じ絵から想像したことでも人によって想像することが違うということに気付かせ、物事を多面的に考える力の基盤を培いたい。物語を書いていく途中で友達と意見を交流することにより、自分にはなかった見方や視点から、さらに想像を広げたり具体的に出来事について考えたりできるだろう。物語をペアで読み合い、さらに想像を広げたり、直しながら書いたりする習慣を身につけさせていきたい。

（２）児童観

児童は、３年１０月の「人物を考えて書こう」で、絵に描かれた人物の様子をもとに、４枚の絵からその人物について想像を広げて物語を書く学習を行っている。４年４月「心の動きを伝えよう」では、心が動いたことを思い出して気持ちが伝わるように文章を書くことに取り組んだ。ほとんどの児童が書くことに対しての抵抗はなく、意欲的に取り組む姿が見られたが、書く内容や表現の仕方に関しては個人差がある。特に書く内容においては、具体性に乏しいものが多く、事実ばかりを書き、そのときどう思ったのかが書けていない児童が多い。また、書きあげた文章の推敲をしてきたが、自分で誤字・脱字に気づくことができにくい児童もいる。これらは、早く課題を済ませたいと思い速さだけを求めたり、自分で作ったものに思い入れが少なかったりすることが原因にあると考えられる。今年度４月の標準学力調査の「書く領域」では、全国得点率 60.2 のところ、72.0 と高い結果となっていたが、「自分の考えを明確にして書く」ことには、個によって差が見られる。そこで、出来上がったものを他学年や保護者に見てもらうなど相手意識をもたせたり、クラスで一つの本にまとめるなど一枚一枚が大切な成果物であることを意識させたりして活動をしてきた。少しずつ、詳しく書けるようになったり見直しの大切さに気付いたりしているが、まだ十分ではなく、自分が作ったものへの思い入れが多いとは言えない。また、ペアで話し合うなどの交流場面では、自分の書いたものをただ読み合うだけになっているペアもあり、自分の意見を伝えたい、友達の考えを聞きたいという意欲に差がある。

（３）指導観

第一次では、つけたい力に向けて既習を確かめながらも、書くためにはどんな学習が必要なのか自分たちで考え学習計画を立てることで、主体的な学びに向かう第一歩とする。教科書の絵をもとに自由に想像を広げさせ、絵に描かれている出来事について考えさせる。また、その後に、「女の子」からとらえた出来事と、「男の子」からとらえた出来事を全体で共有し、注目する人物によって立場が違うことや、それによってできる物語が違ってくることを実感できるようにする。注目する人物や、物語を書く人によって、同じ場面を表す絵でも何通りもの物語ができることを知り、クラス目標の「２２人がえがくストーリー」にもあるように、自分にしか書けない物語を作るという本教材への興味・関心を高められるような導入とする。

第二次では、物語の作り方について教科書教材での学習でイメージを膨らませ、用意された４枚の絵から自分が物語を作ってみたい絵を選び、絵から人物や出来事について想像を広げ、「想像メモ」に書きながら物語を書いていく。４枚の絵は、１枚は教科書の絵を使い、残りの３枚はその教科書の絵の場面に関連させ、子どもたちが興味をもちそうなサッカー、犬の散歩、ベンチで休憩している人から作る。物語は８００字程度とし、出来上がったものは文集にしてクラスに常時置くようにする。まずは、想像メモに「時」「場所」「出来事をとらえる人物」「もう一人の人物」「出来事」といった点を落とさずに書く。ここではどの人物の立場になるのかを明確にさせ、自由に想像させていく。次に、それぞれの人物の気持ちや会話を想像し、さらにメモに書き足していく。ここでは、自分が作った想像メモを友達と交流し、行動や会話を具体的にしていき、想像を広げていく。お互いの想像メモから、もっと知りたいと思うところを伝え合ったり、友達の話を聞いて思いついたことなどを自分の想像メモに加えていったりする。この活動をもとに自分の想像メモをより充実させ、物語の構成を考えるときの下地にしていく。ペアとのやり取りをする時間を大切にし、自分以外の違う見方を知る時間としたい。最後に、作った想像メモをもとに、物語の読み手のことを意識しながら、構成、記述、推敲ができるようにしていく。ここでは、始め、中、終わりを意識して物語の構成を考えられるように「あらすじメモ」を作るようにする。いきなり書き始めるのではなく、まずは物語の柱を作り、そこから具体的にしていくということができるようにする。

第三次では、完成した物語をクラスの中で読み合う。読み合う時には、意見や感想などを付箋に書いて作者に渡すようにする。その付箋をもとに自分の書いた物語を読み返して学習を振り返る。同じ絵ごとにブースを分け、一つの出来事でも人によって感じ方に違いがあるということに気付くようにしていきたい。

4　単元構想図

身につけさせたい資質・能力　≪B書くこと≫

（題材の設定）（内容の検討）ア　相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。

（共有）オ　書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

つけたい力に向けた言語活動

・絵から人物や出来事について想像を広げ、物語を書く。

児童の実態

○意欲的に書く活動に取り組むが、表現の仕方が分かりにくい児童もいる。

○書くことに具体性が乏しく、広がりがない。

本単元で児童につけたい力

◎絵に描かれている場面について想像を広げ、場面の様子を具体的に考える力【B　書くこと　ア】

○友達が書いた物語を読み、話の内容や展開、表現の仕方などについて伝え合う力【B　書くこと　カ】

単元の評価規準

《国語への関心・意欲・態度》

①絵をもとに出来事をとらえ、想像を広げて物語を書くことに、興味をもって取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】

《書く能力》

①絵に描かれている場面について想像を広げ、場面の様子を具体的に考えている。【B（1）ア】

②絵に描かれている場面とその前後で起きる出来事を想像し、構成を考えて物語を書いている。【B（1）イ】

③想像した出来事が伝わるように、人物の会話や行動を具体的にして、物語を書いている。【B（1）ウ】

④友達が書いた物語を読み、話の内容や展開、表現の仕方などについて、よく書けているところを具体的に伝え合っている。【B（1）カ】

《言語についての知識・理解・技能》

①句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて物語を書いている。【言（1）イ（エ）】

第一次 2（導入）

第二次 6（展開）

第三次 1（発展）

学習の流れと評価計画（全9時間）

主体的な学び

○学習への意欲と見通しをもつ。2

1．単元のねらいと流れを確かめる。【関①】

2．教科書の絵と文章から、どのような状況かを自由に考え、絵に描かれているそれぞれの人物の立場になり出来事をとらえる。できあがったものを交流する。【書①】

対話的な学び　**深い学び**

○想像メモの書き方を知り、出来事をとらえる人物を決めて、想像メモに書き出す。その後、あらすじメモを作る。3

3．物語を作ってみたい絵を選び、想像メモを書く。【書①】

4．友達と想像メモを交流し、さらに想像を広げたり、行動や会話を具体的にしたりする。【書①④】

5．自分の想像メモを見ながら、物語の簡単な構成を考え、あらすじメモに書く。【書②】

○あらすじメモをもとに、物語を書く。3

6．7**本時**．あらすじメモを推敲し、物語を書く。【書③】

8．物語を書いたら読み返し、想像したことが伝わるように書けているか確かめる。【言①】

対話的な学び　**深い学び**

○友達と互いに物語を読み合って感想を伝え合う。1

9．友達の物語を読み、よく書けているところや面白いと感じたところを伝え合う。友達の感想をもとに学習を振り返る。【関①】【書④】

５　本時における研究テーマとのかかわり

（本時の目標）
　あらすじメモをもとに、人物の行動や会話を具体的にしながら、変化を意識して物語を書くことができる。

本時の評価規準
☆あらすじメモをもとに、人物の行動や会話を具体的に考え、想像したことが伝わるように物語を書いている。

支援
※語彙力が乏しく、言葉が出てこない児童には、具体的な表現や言葉を机間指導で助言する。

主体的な学びにつながる「めあて」と「振り返り」の関連
・友達との対話を通して、想像したことがうまく表現できているか、一貫性のある物語が書けたかを書かせ、１時間の学びを自覚させるようにする。

深い学びへ向かうための発問・指示の工夫
指　あらすじメモをもとに、物語を完成させよう。

発　書いた物語は、あらすじメモをもとに、物語の変化を意識して作れているかな。つながりのある文章になっているかな。

指　「物語の変化を意識して書くことができたか」『前時に作った「始め」、「中」と、つながりのある物語が作れたか』という視点で今日の学習のふり返りをしましょう。

軸となる言語活動

○あらすじメモに書いた「中」の後半の部分と、「終わり」の部分をもとに、物語を作る。

思考・判断

・友達からもらった感想やアドバイスをもとに、想像したことが伝わるように、人物の会話や行動を具体的に考える。

表現

・ペアの活動を通して、作った物語があらすじメモから外れていないか、また、文と文のつながりや改行など文法がおかしくないかを確認しながら、気を付けて書く。

対話的な学びを実現するための工夫や手立て
・前時で、作ったあらすじメモを読み合い、友達に書いてもらった付箋をノートの下部分に貼り付けているので、それに気を付けながらノートの上部分に物語を作っていく。意見を取り入れ終わった付箋は印をつけたり動かしたりする。また、自分で付け足したことも確認しながら、物語を作っていく。

・出来上がった物語を見合うときには、あらすじメモと見比べながら読み合う。読みながら、使われているところはレ点を入れ、あらすじメモに基づいて物語が書けているかを確認する。

※あらすじメモとは、想像メモに書かれたものを文にしたもので、物語を作っていくときの文章構成の柱になるもの。

６　本時の学習　第二次　５時間目（７／９）

（１）目標

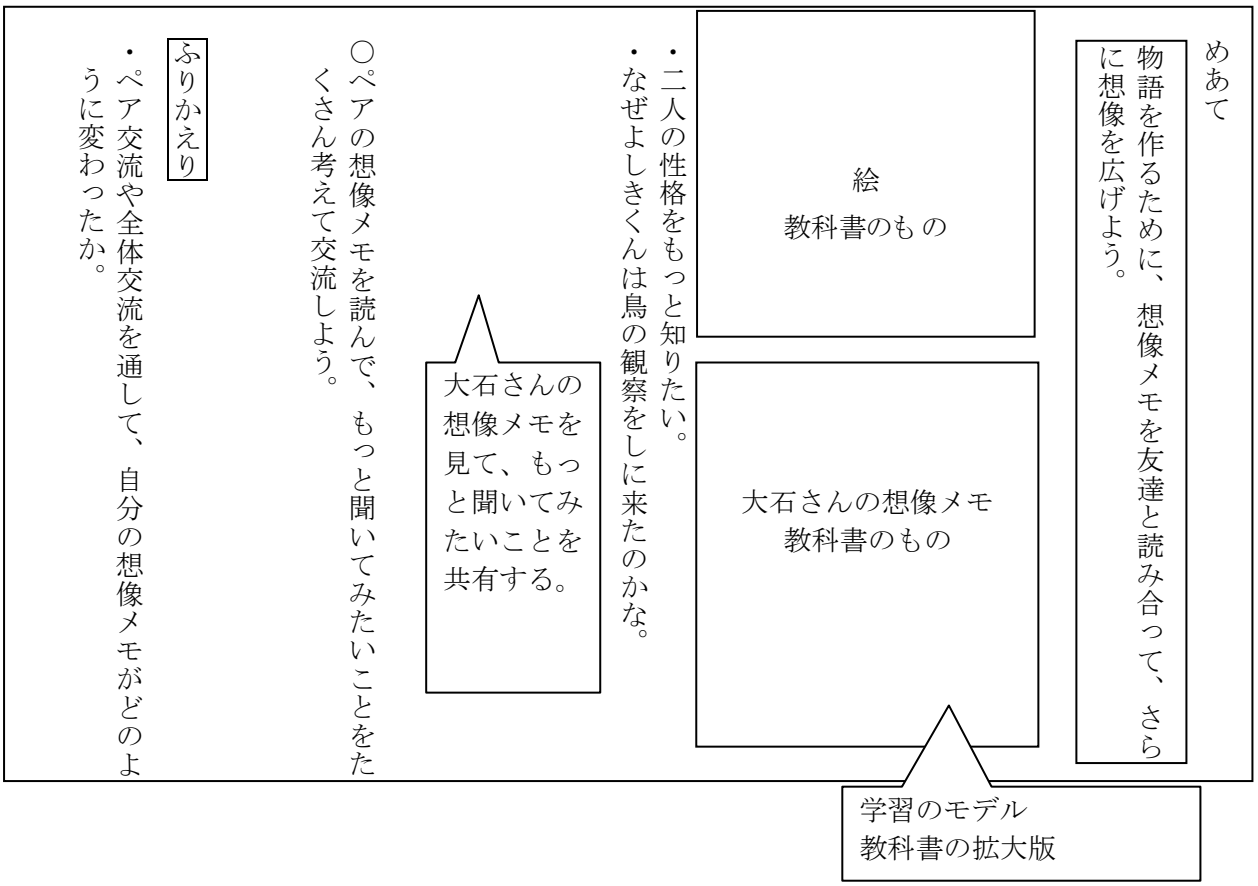
あらすじメモをもとに、人物の行動や会話を具体的にしながら、変化を意識して物語を書くことができる。

（２）展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な指示指、主な発問発
見通す	１　本時の課題をつかむ。 ２　学習の見通しをもつ。 あらすじメモをもとに、物語が変化する部分を書こう。	○前時の流れを確認し、あらすじメモをもとに物語を作っていくことを確認する。
思考・判断・表現する	３　物語を書く。 （１）あらすじメモの「中（後半）」と「終わり」の部分の内容を確認する。　【個人】 （２）あらすじメモをもとに、付箋に書かれていることや自分で付け足したことを取り入れながら物語を作っていく。　【個人】 （３）できた物語をペア同士で読み合い、あらすじメモにもとづいて変化を意識して書けているか、つながりのある文章になっているかなどを確認し合う。 【ペア】→【全体】 ・接続語を使わないと、うまく文章がつながらなかった。 ・あらすじメモに書かれていることが全部入っていてよかった。 ・始めと終わりで人物の気持ちが変わっていた。	○本時で作る物語は、物語の中で一番変化がある場面であることを伝え、前時とのつながりを意識させるようにする。 指　あらすじメモをもとに、物語を完成させよう。 ※書き進みが遅い児童には、あらすじメモや付箋に書かれていることで大事だと思うものに線を引かせ、その部分を文章にしてみるよう促す。 ☆あらすじメモをもとに、人物の行動や会話を具体的に考え、想像したことが伝わるように物語を書いている。【書③】（ノート） 発　書いた物語は、あらすじメモをもとに、物語の変化を意識して作れているかな。つながりのある文章になっているかな。 ○あらすじメモとできた物語を読み比べるようにさせる。あらすじメモにはレ点を入れて、確認していくことを伝える。
まとめ振り返る	４　今日の学習を振り返る。 ・あらすじメモをもとに、主人公たちの会話を詳しくしながら物語を書くことができた。 ・物語が変化しているところを書けて良かった。 ・文と文をつなぐ言葉がよく分からなかったけど、教えてもらってうまくつながった。 ５　次時の学習について知る。 家庭学習 書いた物語に誤字・脱字がないか読み返し、直してくる。	指　「物語の変化を意識して書くことができたか」『前時に作った「始め」、「中」と、つながりのある物語が作れたか』という視点で今日の学習のふり返りをしましょう。 ○次時は、ペアでの読み合いをしての改善点を受けて、さらに推敲しながら物語を清書していくことを伝える。

7　資料

（3）板書計画



（4）準備物

・教科書の想像メモの拡大版　　・ワークシート（想像メモ）